



モッピー だより

特定非営利活動法人
ふれ愛びっく大阪クラブ
責任者 川口 衷
柏原市大正 1-4-24

<http://www.kawachi.zaq.ne.jp/fureai/>

新春対談 全日本連盟と共に！

出席者

全日本グラントソフトボール連盟会長 大橋 博
ふれ愛びっく大阪クラブ理事長 川口 衷

全日本連盟 大橋会長
おめでとうございます
此方こそ、宜しくお願
い致します。



ふれ愛 川口理事長
あけましておめでと
うございます。
新春を迎え、会長のご
意見を様々にお聞き
したいと思ひますの
で宜しくお願いしま
す。

川口理事長

さて、昨年は全日本連盟では、念願の海外交流を果たされ、世界進出への第一歩を踏み出した記念すべき年でした。

大橋会長

ありがとうございます。大勢の方々に助けていただき、心より感謝致しております。

川口理事長

アメリカ遠征は思った以上の成果ではなかったかと思いますが、会長として今回の事業に対する感想をお聞かせ願いますか？

大橋会長

まず、アメリカへ行けたと云う感謝の気持ちが一番です。予想もしなかった50名の参加を頂き喜びを感じています。野球の本場に行けた。アメリカの人の前で、グラントソフトボールが実際に行えた。

50名の参加者が得られましたが、いろいろな問題で当初30名くらいかなと、、、、。主旨は賛成だが、スケジュール等の調整で断念せざるをえなかった方々がいらっしゃいます。

自分では、今事業に対して先方に見て頂くとともに、在米日本人の皆さんが感銘と感動を受け止めて頂いたと思っています。欲を言いますと言葉の通じないなかでしたが、アメリカの現状をもっと知れたかった。そして、もっと交流が深められたらと思っています。参加者には、高齢者が多く、厳しい日程を心配していましたが、皆さんお元気でそのパワーに感服しました。正直、私は少々疲れ気味でしたが、理事長は、お疲れではなかったですか？



川口理事長

私も副団長という立場で参加させて頂いたのですが、立場上の緊張感が疲れを忘れさせてくれました。

大橋会長

イヤー なんとも……。今後もそのパワーで全日本連盟のサポートを宜しくお願い致します。

川口理事長

今回の海外交流での全体的な印象は会長さんと同感で、関係者の意欲と協力の結果が今回の成果であり、グランドソフトボールが日の目を見た思いがします。しかし、ホームページ等でも投げ掛けられているように、若干の疑問を呈するところもあります。ひとつには、オールジャパンの選抜基準です。あと、試合日程が少なかった点。事業内容の詳細を知りたい等の意見が出ていますが、

大橋会長

「オールジャパンチーム」のメンバー選抜に関しては、実行委員会での担当者が検討させて頂きました。

私としましては、諸般の事情の中、参加して下さったメンバーに心より敬意を表します。日本を代表するには相応しいチームであったと思っております。

次に、試合日程ですが、日程立案に無理があったかなあと感じています。交流もしたい、文化も知りたい、もちろん試合はもっと行いたいと、全てをマスターしようとした事に無理がありました。もっと目的を明確にして絞れば良かったと反省しています。事前視察を充実させ、綿密なる計画のもとに本隊が安心したスケジュールで再度ケンタッキーへと考えています。その為にも、ご支援金の収支明細も含み事業内容のご報告を早い時機にさせて頂くつもりです。

川口理事長

ありがとうございました。反省を踏まえて今年の再渡米の抱負を語って頂きました。

さて、次に国内事業に目を向けまして、11月三重県で開催された「全日本選手権大会」ですが、今回に関しては、非常に悪評だったようですが、

大橋会長

正直、私自身反省しております。日程のとり方がまず間違っていました。大会実施が第一目的だったので、金曜～日曜日へと土曜日を挟む無理は承知していたのですが、、、。無理をして参加してくれたチームもあったようで、その事がゲーム内容にも大きく影響しました。

川口理事長

「全日本選手権大会」へは、競技・技術・マナーに優れたチームの参加が望まれますが、日程の問題はもとより、参加選考基準を見直し等の意見も出ておるようですが、

大橋会長

この大会では、12チーム参加を基本にしてブロックの内からの代表としておりますが、出場は自由としています。ブロック代表として、障スポ大会、選手権大会にどのチームを送るかは、自由度を持たせています。

川口理事長

今年は、障スポ大会出場チームの大半が不参加でした。この事は、グランドソフトボールファンからも残念な思いの声が上がったようです。

大橋会長

同感です。

川口理事長

さて、その障スポ大会では、選手が応援席の小学生を怒鳴りつけるという不祥事がありました

大橋会長

ええ、私は、その場に居りませんでした。正直、啞然とする思いです。当事者はもちろん、チーム全体の問題として猛省をお願いしたいと思います。

川口理事長

ましてや、あの選手は開催地チームですよね。ホストチームとしての自覚がなかったのでしょうか？私も、たまたま同席していましたが、子供たちはシュンとしていましたよ。

白熱したゲームただだけに、残念な出来事でした。

大橋会長

選手も試合に集中するあまりの発言だともいますが、スポーツマンシップを発揮してもらいたかったですね。一生懸命応援してくださった子供さんたちには、大変もうしわけない事とも思います。

川口理事長

全く、そのとおりだと思います。グラソフ応援団を自認する私共にとりましても、無念という他ありません。まあ、マナーという点においては、個々のスポーツマンシップを信じるという事にしまして、選手権・障スポ大会合わせて審判の判定等、審判技術の向上についてお聞かせください。行政主導の障害スポ大会への、競技役員派遣については、如何でしょうか？

大橋会長

なかなか、難しい問題です。現状、障スポ大会では、地元ソフトボール協会へ審判要請し、ご協力いただいております。各地協会では、誠意をもって対応していただいておりますが、何しろ、試合体験の場が少なく、又、この競技特有の難しさもあり、現場での戸惑いは多いようです。連盟の審判員を派遣するのがベターだとは思いますが、窓口となっている行政サイドの意向もあり一朝一夕にはいきません。現時点での出来る事としては、大会または予選会を受け持つ地へ、指導員を派遣し研修会を開くことと、同時に、開催地チームにもお願いして試合数を増やして、審判技術研修の場としていただきたいと思います

川口理事長

なるほど、行政に更なる協力を得ながら審判を育成しつつ、大会の中で技術向上を目指す訳ですね。

大橋会長

障スポ大会後、開催地の審判員さんが全日本のメンバーに入るかが問題で、予選会を受け持つ地へ中央から指導に赴き地元の審判に対する熱は上がっていると思います。これまでどおり研修会を地道に続ける必要を感じております。

川口理事長

強い意志を聞かせて頂きました。お互い協力しあい、グラソフ発展の為に課題を考えましょう。新しい考えとして、競技能力の高い選手の喜ぶような大会実施の考えはありませんか？

大橋会長

考え方としてはふたつ。ハイレベルを競い合う競技大会と底辺を如何に広げるかということです。「自分は、あの大会で活躍したぞ！」と言う動機付けの大会を考えたいと思いますが、現状では時期尚早だと思います。選手の高齢化に伴う、競技人口の減少等他様々な問題があり、参加人数を如何に確保しつつ、グラソフソフトボール環境を整えるか。この事は、各チームの問題とはいえ、連盟から提案・指導をしなければと思っています。

川口理事長

会長の責任は、大きいですね。

大橋会長

全日本連盟発足より5期10年、会長としてまい進して参りました。21世紀のグラソフを考えて役員体制を見直すとともに、「ふれ愛びっく」さんとの強固な関係構築に向け改革せねばと考えてます。

川口理事長

最後に、新しい年に向けて

大橋会長

11年目という節目の年を迎えました。連盟・審判・選手共に、切磋琢磨出来ればと考えています。海外事業の継続・選手権大会の見直し、新たな大会の導入計画等。そして、何よりも底辺を広げていかねばなりません。私も、もう一度初心に戻りことに当たる所存です。

川口理事長

長時間に渡り、ありがとうございました。私共も精一杯協力させて頂く所存です。今後とも宜しくお付き合いください。

第7回全日本グランドソフトボール選手権大会

大阪府全日本選手権初の全国制覇!!

平成18年11月3日(祝)～5日(日)、三重県津市「三重県立身体障害者総合福祉センター」グラウンドで、「第7回全日本グランドソフトボール選手権大会」開催された。

この大会は、全日本グランドソフトボール連盟が主催・主管する手作りの大会で、全国から9チームが参加(埼玉県・東京都・愛知県・三重県・富山県・大阪府・奈良県・広島市・高知県)が参加、全国一を賭けて熱戦18試合が行われた。

3日(祝)、17時から「三重県鍼灸会館」で審判会議を開催、全国から駆けつけた審判員30名(群馬県3名・埼玉県5名・愛知県3名・三重県3名・大阪府14名・兵庫県1名・島根県1名)が参加、大会を成功させるため「試合運営・ルール解釈」等について意見交換・統一を行った。また、17時30分から代表者会議・抽選会が行われ、それぞれ対戦相手が決定した。

18時から来賓を迎え、チーム代表者・競技役員等関係者が多数参加して「三重県鍼灸会館」で開会式が行われた。開会式で全日本グランドソフトボール連盟大橋 博会長は、この大会の成功を祈念するとともに、この大会を運営・協力いただく多くのボランティアに対して、感謝の気持ちを述べられた。また、連盟設立から10年の節目を迎え、会長として一定役割を果たしたとして、新たらしい会長にバトンを渡したい旨述べられた。なお、「世界に翔はたくグランドソフトボール」を目指し、そのスタートとしてアメリカケンタッキー州ルイビル市へ、平成18年7月、49名の「2006.7 海外交流団」を派遣し、大成功に終わることができたこと。

また、平成19年10月～11月にかけて「2007. 10海外交流団」派遣を計画しており、多数参加してほしい旨報告された。

この後、懇親会が行われ選手・連盟・競技役員等関係者の交流を図り、大会の成功と健闘を誓うとともに、グランドソフトボールに賭ける熱い想いを語りあった。

4日(土)は、3チームによる予選リーグ戦7試合が行われたが、残念ながら奈良県チームが選手が揃わず不戦敗となり、オープン戦2試合(三重県7対1高知県、広島市2対7富山県)が行われた。

5日(日)は、予選リーグ戦成績順による、3チームによる決勝リーグ戦(順位決定戦)8試合、オープン戦1試合(三重県10対1奈良県)が行われ、全国制覇を目指して各チームはそれぞれ熱戦を展開。

大阪府が昨年度優勝の広島県を5対3で破り勝利、その勢いで高知県と対戦、初回1点を先制するも1回裏ホームランで2点を与え逆転されたが、最終回6回表2点を取り逆転。6回裏高知県は、大阪二死満塁と詰め寄るも、大阪府濱川投手が激投、決定打が出ずに残念ながら敗退、大阪府は初の全日本選手権全国制覇を果たした。おめでとう大阪府チーム!!

試合終了後、表彰式・閉会式があり岡本大阪府主将に優勝旗を授与、個人賞として最優秀選手賞に濱川投手(全盲)・左選手(弱視)が表彰された。また、準優勝の広島市・第3位の高知県に表彰盾がそれぞれに贈られた。

選手はお互いに、来年開催される「第7回全国障害者スポーツ大会」及び「第8回全日本グランドソフトボール選手権大会」等での再会を誓い合いた。

順位	チーム	勝 敗
優 勝	大阪府	3勝1敗
準優勝	広島市	3勝1敗
第三位	高知県	2勝2敗
4 位	埼玉県	3勝1敗
5 位	愛知県	2勝2敗
6 位	富山県	1勝3敗
7 位	三重県	3勝1敗
8 位	閩人東京	1勝3敗
9 位	奈良県	0勝4敗

-	1	2	3	4	5	6	7	計	本塁打	3塁打	2塁打	投手	捕手
大阪府	1	0	0	0	0	2	-	3	-	-	岡本・丸山	濱川	渡邊
高知県	2	0	0	0	0	0	-	2	井上・前川	森田	梶原	山田・金森	片岡・森田

大阪府は、1回一死後、岡本・丸山の連続2塁打で幸先よく一点をキープ。2～5回迄、高知山田投手に交わされ0行進、6回相手失策、3つの四球を絡めて待望の2点を獲得し優勝を決定づけた。

一方、高知は仲村新監督のもとに元気一杯で、1回先行された1点をすぐその裏、井上・前川のソロホームランで逆転したが、中押し点が取れず、5回二死後、一番森田のエンタイトル三塁打も還すことが出来ず、更らに6回二死満塁と攻めるが得点ならず敗れた。大阪オメデトウと声掛けして勝者を讃えてグラウンドを後にした!!

(記録者 杉原利治)

第6回全国障害者スポーツ大会

山梨県徳島県を破り2年連続優勝!!



のじぎく国体開会式模様

平成18年10月13日(金)～16日(月)、秋晴れのもと、兵庫県淡路市「兵庫県立淡路佐野運動公園多目的広場」において、「第6回全国障害者スポーツ大会」が全国から9チーム(青森県・山梨県・群馬県・愛知県・京都府・徳島県・沖縄県・兵庫県・神戸市)が参加して盛大に開催された。

13日の監督・主将会議、14日には総合開会式、開始式が行われ、開始式では兵庫県チーム矢野主将が力強く選手宣誓を行い、第1回戦 兵庫県対徳島県 が行われ熱戦の火蓋を切った。

15日は、2回戦4試合・準決勝戦2試合、敗者による交流戦2試合の8試合が行われた。16日は、決勝戦 徳島県対山梨県、第3位決定戦沖縄県対愛知県の2試合が行われ、4日間の幕が閉じられた。

この大会は、風の影響を受けたのか大味な試合がある一方、最終回逆転サヨナラ勝ちの好ゲームが3ゲーム(兵庫県対徳島県、群馬県対愛知県、京都府対山梨県)、また、ベテラン同志の対戦、藤本投手(徳島県)小室投手(愛知県)の投手戦(1回表先制した1点を守りきった)等好試合が多く観客を魅了した。

決勝戦は、昨年の岡山大会と同じ顔合わせ、0対0で両チーム優勝に輝いたが、本当の日本一を決すべく、山梨県は打倒「常勝徳島県」を目指し、投手陣の頑張りりと5番宮下選手のツーランホームラン2本の快挙で、山田前監督のスリランホームランなどで粘る徳島県を破り、山梨県が5対4で徳島県を破り、見事2年連続優勝を果たした。おめでとう山梨県!!

残念ながら準優勝に終わった徳島県は、大会が「全国障害者スポーツ大会」に名称変更後、決勝戦が雨天中止となり抽選で青森県に敗れ準優勝(第4回 埼玉県)になった以外、4回優勝と歴史に残る快挙を打ち立てており、日本のグランドソフトボールをリードしている。この悔しさをバネに更なる奮起をされ、全国を代表するチームとしてあり続けられることを期待する。

なお、この大会では、ピンチに弱視打者を敬遠、満塁策をとり、全盲打者との勝負に賭けたが、全盲打者に四球を与える試合が3試合もあった。それが決勝点(徳島県対愛知県)となったり、逆転を許し試合を決める大きな要素となったことは残念である。

全盲打者の頑張りか試合の雰囲気飲まれ投手がコントロールを乱したのか、今後の試合の運び方に一考を要する大きな課題となった。

2回戦、群馬県対愛知県は、群馬県が3回裏まで6対5で1点をリード、時間制限(80分を超えて新しいイニングに入らない)2分を残し4回に突入した。

4回表、更に3点を追加し、勝利をほぼ手中にしたかと思えたが、4回裏一死でピンチになり弱視打者を敬遠、満塁策をとったが、全盲打者に押し出しの四球、4番溝上監督の3塁打を浴び同点となった。次打者榊原(弱視)に内野安打を許し溝上を迎え逆転、愛知県が勝利した。

群馬県としては、残り2分で新しいイニングに入ったこと。また、同点で迎えた一死走者三塁で、次打者(弱視)と勝負し内野安打で1点を許し、結果的には逆転で敗者になったが、試合時間への対応(なぜタイム等をとらなかったか)、また、どうなるかわからないが弱視打者を敬遠、次の全盲打者と勝負し二死、更に次の弱視打者を敬遠、満塁策をとり、二死満塁で全盲打者との勝負に賭けるといふ策が考えられたのではないかと多くの観戦者からあった。

	1	2	3	4	5	6	7	計	安打	失策	投手	捕手
山梨県	3	0	2	0	0	-	-	5	7	0	大野修郎	向井 正
徳島県	0	0	0	3	1	-	-	4	8	0	藤本博文	林 政夫・宮田幸治
-	ホームラン				三塁打			二塁打				
山梨県	宮下 聡②				宮下竹男							
徳島県	山田信夫				-			長濱容敏・栗尾隆志・清水憲司				

チームに人あり(10)

「石川県チーム 大内 ミチゲイ さん」



1985年3月12日生まれ 魚座
血液型O型
ニックネーム:ミッチー

Q: グランドソフトボールとの関わりは、いつごろからですか？

A: 4年前位に石川盲学校に入学し盲人バレーを始めました。

グラソフのきっかけは、石川盲は人数の少ない学校で、部活のメンバーを集めるのが大変です。それで私達バレー部が、よく分からないまま野球部に入る事になりました。普通の野球もよく分からなかったんですけどね。その時、私は弱視プレーヤーでしたが、チームの戦力にもなれず、大会ではベンチで応援をしてました。

Q: 石川県盲でグラソフと出会い、その後大阪府盲に一時転校されたのですか。石川と大阪を比べて、グラソフや生活面など違いはありますか？

A: 生徒数の少ない石川盲では、限られたメンバーでするしかないんですけど、大阪府盲は野球部の中から戦力になる選手を選べるので、強いチームができるとおもいます。それに大阪府盲の選手達は、野球に熱心な方々がたくさんいます。

Q: 現在の主なポジションは？

A: レフトです。昨年、大阪府盲でレフトをやってからずっとレフトをやらせて貰ってます。

Q: 練習は厳しいですか。

A: 練習はそんなに厳しくありません。一つ言うなら、夏に50回連続ノックはきつかったです(˘˘A)

Q: 試合でライナー性の速いゴロの打球を横っ飛びで捕球されているのをよく見ますが、打球に対する反応が早いんですよね。

A: 慣れれば感覚で分かってきます。聴覚はもちろんのこと、想像力も大事だと思います。バッターの特徴を見分けるのも大切です。しかし、かなり集中しないとできません。

Q: 自分に点数を付けると何点ですか。

A: ん…、自分では付けられません。

Q: チームの皆さんは優しいですか。

A: はい。皆さんとても優しく、色々お世話になってます。

Q: グラソフ以外の趣味は？

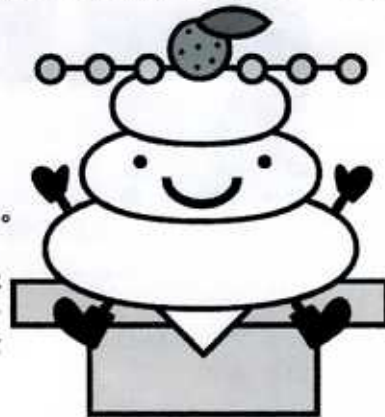
A: 色々ありますが、特に好きなのは、ポップダンスとカラオケです。中学校の時にダンス部に入って盲学校でもダンスクラブを作るくらい好きです。自分で音楽に合わせてダンスのステップを考えたりするのが好きです。カラオケは、最近流行りの曲を歌います。好きな歌手はいっぱいいます。クリスタル・ケイ、BoA、大塚愛などです。

Q: これからの抱負を聞かせてください。

A: 国体に出てみたいです。あとは、大阪府チームと対戦して、左健吾選手(弱視)の打球を捕球したいです。

Q: 今年、連盟ではアメリカへ海外交流団を派遣しましたが、アメリカでプレーするということに興味はありますか。

A: そうですね。行ってみたいという気持ちはあります。向こうの人達とも、交流してみたいし、グラソフをより多くの人達に知ってもらいたいと思っています。



© OSAKA MET BRADERS CO., LTD.

インタビュー後の感想

いつも素晴らしい守備を見せてもらってますがポップダンスが趣味と伺い、あの俊敏な動きも納得できるような気がしました。いつか機会があればダンスも見てみたいものです。また彼女の守備や選球眼の良さを多くの人に知ってもらいたいとも思いました。

編集後記

グラソフが世界へ羽ばたく第一歩を踏み出した基礎を元に飛躍の年とすべく皆で頑張ろう！！